県立知的障害者支援施設整備
基本構想について
報告書

令和８年 10 月

県立知的障害者支援施設整備基本構想検討委員会

目　　次

１　はじめに **２**

２　施設入所支援の定員の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園） **３**

２－１　県内入所者の状況 ４

２－２　川部みどり園の施設入所支援の状況と定員について ５

２－３　県内入所者の状況 ６

３　短期入所の定員の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園） **７**

３－１　川部みどり園の短期入所の状況と定員について ７

３－２　香川県ふじみ園の短期入所の状況と定員について ７

４　生活介護の利用定員の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園） **８**

４－１　県内の状況について ８

４－２　川部みどり園の利用状況と定員について ８

４－３　香川県ふじみ園の利用状況と定員について ９

５　就労継続支援Ｂ型の利用定員等の検討（香川県ふじみ園） **10**

５－１　県内及び香川県ふじみ園の利用状況と定員について 10

６　生活訓練の利用定員等の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園） **11**

６－１　県内の状況について 11

６－２　川部みどり園及び香川県ふじみ園の利用定員等について 11

７　就労移行支援の利用定員等の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園） **12**

７－１　県内の状況について 12

７－２　川部みどり園及び香川県ふじみ園の利用定員等について 12

８　福祉ホームの利用定員等の検討（香川県ふじみ園） **13**

８－１　香川県ふじみ園の定員等について 13

９　グループホームについて（参考・香川県ふじみ園） **13**

９－１　県内の状況について 13

10　おわりに **14**

１　はじめに

県では、令和６年度に「県立障害者支援施設のあり方検討会」を開催し、県立障害者支援施設に求められる役割や機能、今後の施設整備の方向性について検討を行いました。

検討会では、各施設について、次のとおり方向性が示されました。

（１）川部みどり園について

・民間施設での支援が困難な、高度かつ専門的な支援を要する方の受入れや、先駆的な実践を通じて得られた知見や支援技術の普及など民間施設のバックアップに係る役割を担う。

・現在の建物は、高齢化や障害の重度化、家庭的な養育環境の必要性など、より多様化・複雑化する入所者のケアニーズを満たせる構造となっていない。建築年数を考慮すると、改修が適当である。

（２）香川県ふじみ園について

・西部圏域における知的障害者入所施設の機能を一義的に発揮するとともに、他圏域の入所希望者の受入れに係る補完的な役割を担う。

・現在の建物は老朽化しており、個室化やバリアフリー化など入所者ニーズに対応できていない。建築年数を考慮すると、建替えによる整備が必要である。

これらの検討結果を踏まえ、基本構想検討委員会では、人口減少社会における知的障害のある方の人数の将来推計や地域の支援ニーズ等を踏まえ、各施設に求められる適正な機能(サービス)及び定員について検討を行いましたので、その基本的な方向性を示します。

２　施設入所支援の定員の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園）

２－１　県内入所者の状況

・　近年、県内の施設入所支援の定員・入所者数は減少傾向にあるが、これは人口減少に加え、地域移行が促進されていることが主な要因である。

・　また、施設内においても個室化等の住環境の整備が進み、施設での適正な受け入れ人数が減少していることも背景にあり、国においても地域移行を着実に進めるため入所施設の個室化を推進していることからも、この傾向は今後も継続する見込みである。

・　居室の個室化は、障害特性に応じた手厚い支援やプライバシー保護を目的としているが、多床室利用から個室利用となることで、定員数と実利用者数に乖離が生じている。

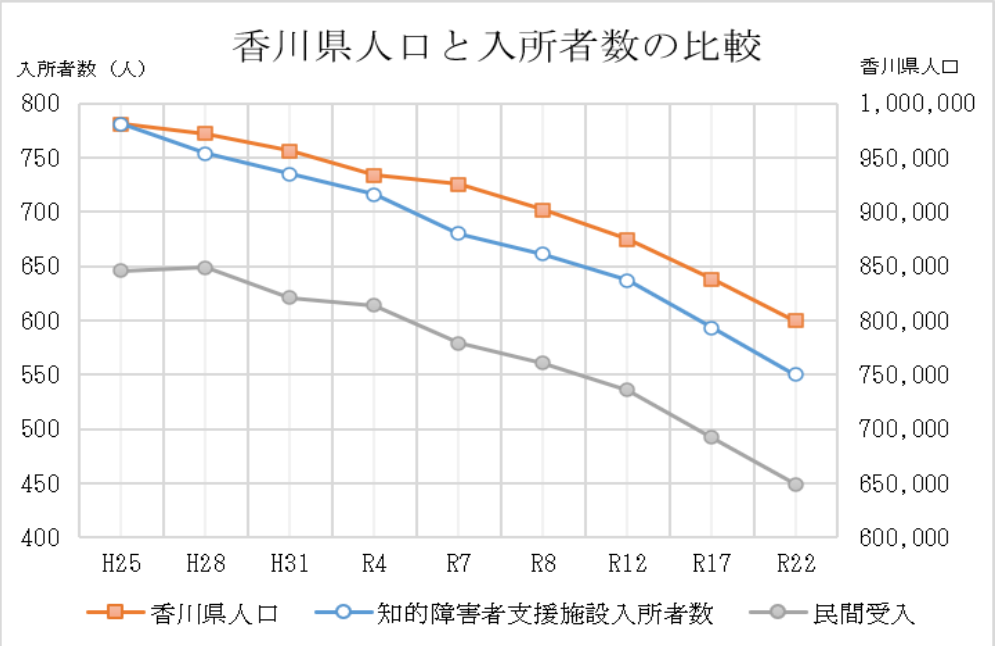
・　一方で、県内の施設入所待機者は依然として発生しており、入所需要は根強く、こうした入所需要への対応と、支援の質の向上、および利用者の安心・安全の確保の両立が、今後の課題と考えられる。

○県内の知的障害者支援施設の入所定員・入所者数（各年度 4/1 時点）

	H25	H28	R1	R4	R7	R8	R12	R17	R22
香川県人口（千人）	981	972	956	934	910	902	874	837	800
入所定員数（人）	809	809	780	780	760	750	―	―	―
入所者数（人）	781	754	735	716	680	661	636	593	550
（うち民間受入）	646	649	621	614	579	561	535	492	449

※ 香川県人口の推計（R12 以降）は、国立社会保障・人口問題研究所の統計を参照。

※ R12 以降の入所者数は、香川県人口に対する H25～R8 の平均から推計。



○県内の知的障害者入所施設待機者数（各年度 4/1 時点）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R 7	R8
待機者数（人）	35	36	42	33	46	37	34	39

※ 川部みどり園の待機者は除く。

２－２　川部みどり園の施設入所支援の状況と定員について

（１）障害者の状況と定員

- 障害者の定員は、平成 24 年以降 35 名としている。
- 入所者数の状況は、令和４年～令和８年の年度当初の平均で 26 名となっており（定員と入所者数の乖離は個室化の影響）、現在は、概ね受け入れ可能な上限の利用者を受け入れている。
- 川部みどり園において待機者数の集計は行っていないものの、入所に関する問い合わせは継続的に寄せられており、一定の入所ニーズがあることがうかがえ、今後も入所需要は維持される見込みである。
- 川部みどり園は直営施設であり、民間施設での受け入れが困難なケースを受け入れる役割が大きく期待されていることから、現在の入所者数を踏まえて、28 名を定員として設定する。
- 既存建物で個室化・ユニット化に対応した改修を行う場合、居室数は 31 室確保できる。居室は、短期入所利用者分も確保する必要があるが、後述する短期入所用の居室３室を確保したとしても、既存建物において、入所定員（28 名）分の居室は確保できる見込みである。

○障害者の定員・入所者数（各年度 4/1 時点）

	H25	H28	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
定　員　数	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
入 所 者 数	34	31	32	30	28	29	26	25	25	23

（２）障害児の状況と定員

- 障害児の定員は、１部屋を複数名で利用することを想定し、平成８年から 35 名としてきた。
- 現在は、プライバシーの確保、児童間の性的・身体的暴力を予防するため、個室利用を基本としており、居室数 24（男子居室 13、女子居室 11）が実質の定員となっている。
- 過去５年間の４月１日時点の入所状況は微減傾向にあるが、年度途中に３名を受け入れた年度もあり、こうした入所ニーズにも対応していく必要がある。
- また、県内の知的障害児入所施設は、川部みどり園のほかは民間施設の白鳥園（定員 21 名）のみであり、県内施設の満床を理由とした県外施設への措置入所や契約入所が継続的に発生している。
- このため、障害児の入所定員は、直近（令和８年４月時点）の川部みどり園児童棟入所児童数 18 名に、年度内の最大増員見込３名、および県外施設への平均入所児童数４名を加えた 25 名とする。
- 居室数は、入所定員数の 25 室に加え、後述する短期入所用１室の計 26 室が必要となるが、既存建物の活用を前提として個室化を優先し、入所児童のプライバシーを保護し、心身ともに安心・安全に生活できる居場所の確保を行う。
- また、年長入所児の地域移行など、退園に向けた支援を行うため、自立訓練室も引き続き、設置することとする。

○障害児の定員・入所者数（各年度 4/1 時点）

	H25	H28	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
定　員　数	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
入 所 者 数	35	30	26	21	24	23	24	22	21	18

○障害児の県外施設への入所数（各年度 4/1 時点）

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R3～R8 平均
契約入所数	1	2	3	1	1	2	1.76
措置入所数	2	1	1	1	2	5	1.92
合　　計	3	3	4	2	3	7	3.68

２－３　香川県ふじみ園の施設入所支援の状況と定員について

・　香川県ふじみ園の入所定員は、平成 31 年から 90 名としており、近年の入所者数は 75 名程度で推移している（定員と入所者数の乖離は主に個室化の影響）。

・　令和８年度は、77 名の受入を行っており、概ね受け入れ可能な上限の利用者を受け入れている。

・　香川県ふじみ園も県立施設（指定管理施設）であり、民間施設で受け入れが困難なケースを受け入れる役割が期待されているが、今後の人口減少や、将来の労働力不足も考慮する必要があることから、現在の受け入れ状況を踏まえて、80 名を定員として設定する。

○香川県ふじみ園の定員・入所者数の推移（各年度 4/1 時点）

	H25	H28	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
定　員　数	110	110	90	90	90	90	90	90	90	90
入 所 者 数	101	94	82	76	83	73	74	72	76	77

３　短期入所の定員の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園）

３－１　川部みどり園の短期入所の状況と定員について

・　短期入所は障害者・障害児とも、主に家族のレスパイト目的での利用ニーズが継続的あり、重度障害のある方が利用している。

・　川部みどり園の入所棟(者)は、比較的重度の障害の利用者が多く利用しているが、その障害特性上、変化や刺激に対し敏感である。そのため短期入所者は、施設入所者とは動線が重ならない区画での利用が望ましく、空床利用ではなく、専用居室を設ける併設型が必要と考えられる。

・　川部みどり園の短期入所は、現在「障害者５名」「障害児４名＋空床利用」を定員としているが、障害者については現在の利用ニーズに合わせた「障害者３名(東棟(男性のみ入所)で１室、南棟で男性エリア・女性エリア各１室)」とし、障害児については利用者が同時に２名以上となることは稀であることから「障害児１名＋空床利用」とする。

○川部みどり園の短期入所利用状況の推移（月平均利用件数）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
障　害　者	72.8	60.2	34.3	27.1	29.5	16.8	26.9
障　害　児	0.2	12.2	14.8	10.1	11.3	13.7	13.6

３－２　香川県ふじみ園の短期入所の状況と定員について

・　短期入所の需要は旺盛とは言えないが、施設入所に繋がることや、県立施設としてレスパイトケアに対応する役割もあることを考えると、一定の受入れは継続する必要がある。

・　香川県ふじみ園の短期入所の定員は、利用状況を踏まえて、これまでと同様に「空床利用」とする。

○香川県ふじみ園の短期入所利用状況の推移（月平均利用件数）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
おおぞら	0.7	0.1	0	0	0	0.7	0.4
だいち	1.3	1.0	0.4	0.4	0.4	0.6	1.4

４　生活介護の利用定員の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園）

４－１　県内の状況について

・　生活介護の利用者数は全体として増えているが、その増加は主に地域の生活介護事業所への通所利用で見られており、障害者支援施設が提供している生活介護の利用者は減少している。

・　障害者支援施設での生活介護利用者数は、通所による利用もあることから、施設入所者数に対して概ね 115%前後で推移している。

○県内の生活介護利用者数（各年度 4/1 時点）

	H25	H28	R1	R4	R7	R8
主たる対象者を知的障害者としている生活介護事業所の利用者数	1,386	1,534	1,697	1,830	1,932	1,972
障害者支援施設（知的）での生活介護利用者数	882	877	855	817	793	778
施設入所者数	781	754	735	716	680	661
入所者数との比率	112.9%	116.3%	116.3%	114.1%	116.6%	117.7%

４－２　川部みどり園の利用状況と定員について

・　川部みどり園の生活介護定員数は、平成 23 年度から 42 名としている。

・　生活介護の利用者数は、過去には概ね定員どおりの利用があったが、近年減少傾向にある。また、川部みどり園においても、生活介護利用者数は施設入所者数に対して、概ね 115%となっている。

・　そのため、障害者の施設入所支援の定員 28 名に、入所者数に対する利用比率 115%を掛け合わせた 33 名を定員とするが、将来的には利用者の状況を踏まえて、規模縮小を検討する。

○川部みどり園の生活介護の定員・利用者数の推移（各年度 4/1 時点）

	H25	H28	R1	R4	R7	R8
生活介護定員数	42	42	42	42	42	42
生活介護利用者数	41	40	42	34	29	27
施設入所者数	34	31	32	29	25	23
入所者数との比率	120.6%	129.0%	131.3%	117.2%	116.0%	117.4%

４－３　香川県ふじみ園の利用状況と定員について

・　香川県ふじみ園の生活介護定員数は、令和７年度から 100 名としている。

・　生活介護の利用者数は、近年減少傾向にあるが、香川県ふじみ園においても生活介護利用者数は施設入所者数に対して、概ね 115%となっている。

・　このため、障害者の施設入所支援の定員 80 名に、入所者数に対する利用比率 115%を掛け合わせた、92 名を定員とする。

○香川県ふじみ園の生活介護の定員・利用者数の推移（各年度 4/1 時点）

	H25	H28	R1	R4	R7	R8
生活介護定員数	110	110	110	110	100	100
生活介護利用者数	113	109	100	91	88	88
施設入所者数	101	94	82	73	76	77
入所者数との比率	111.9%	116.0%	122.0%	124.7%	115.8%	114.3%

５　就労継続支援Ｂ型の利用定員等の検討（香川県ふじみ園）

５－１　県内及び香川県ふじみ園の利用状況と定員について

・　県内の就労継続支援Ｂ型事業所を利用している障害者は、継続的に増加しており、サービスに対する需要は高い。

・　近年は民間施設の参入も多い分野であるため、県立施設で事業を継続していくことについては、検討が必要である。

・　香川県ふじみ園が行っている園芸やクリーニングの作業は、他に取り組んでいる事業所は少なく、香川県ふじみ園の特徴である。また、継続して 30 名程度の利用者がいることを踏まえると、香川県ふじみ園に求められている役割であると考えられる。そのため定員数は、現状の 28 名として、引き続き事業を実施する。

・　一方で、利用者の高齢化・障害の重度化や、職員のマンパワー不足などの状況から、今後も同規模で事業を続けていくことが困難となる可能性は高い。現在は、掲げている定員一杯の利用者がいることから、今すぐの規模の縮小ではなく、利用者が減少したタイミングで改めて定員数を見直すなど、事業規模の縮小を検討する。

○県内の就労継続支援Ｂ型の利用者数（各年度 4/1 時点）

		H25	H28	R1	R4	R7	R8
主たる対象者を知的障害者としている就労継続支援Ｂ型事業所の利用者数	定　員　数	1,384	1,631	2,001	2,357	2,891	3,008
	利用者数	1,121	1,437	1,699	2,065	2,544	2,841
うち香川県ふじみ園	定　員　数	30	30	32	32	32	32
	利用者数	26	30	33	26	28	28

６　生活訓練の利用定員等の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園）

６－１　県内の状況について

・　県内には生活訓練のサービスを提供している施設は４か所あり、高松圏域には川部みどり園を含めて３か所（うち１か所は休止中)、中讃圏域には香川県ふじみ園のみとなっている(病院関係のかがわ総合リハビリテーションセンターを除く)。

・　近年、県内における知的障害者を主な対象とした生活訓練(川部みどり園、香川県ふじみ園、ほか１か所)の利用者数は、低い水準で推移している。その要因の一つとして、就労継続支援事業所など、他の障害福祉サービスの利用が進んでいることが考えられる。

６－２　川部みどり園及び香川県ふじみ園の利用定員等について

・　川部みどり園及び香川県ふじみ園の生活訓練は、入所を伴った利用を基本とし、入所生活を通じて日常生活上の動作や習慣を身につけ、地域生活への移行を支援するものであり、通所利用を基本とする民間事業所とは支援内容・機能が異なる。

・　そのため、主に入所者を対象とした障害福祉サービスの提供は継続する必要があるが、近年の利用状況を踏まえて、それぞれ定員は最小定員である６名とする。

・　ただし、近年の利用状況が、定員に比べて低く留まってる状況に鑑み、将来的には利用状況を踏まえたうえで廃止も含め検討する。

○県内の生活訓練の利用者数（各年度 4/1 時点）

		H25	H28	R1	R4	R7	R8
主たる対象者を知的障害者としている生活訓練事業者の利用者数	定　員　数	30	24	32	32	25	25
	利用者数	33	10	9	23	21	16
うち川部みどり園	定　員　数	12	12	12	12	12	12
	利用者数	11	6	4	1	2	0
うち香川県ふじみ園	定　員　数	12	12	6	6	6	6
	利用者数	10	4	2	0	2	2

７　就労移行支援の利用定員等の検討（川部みどり園、香川県ふじみ園）

７－１　県内の状況について

・　県内施設のうち、知的障害者を対象とした就労移行支援を提供している施設は、川部みどり園・香川県ふじみ園の他に 11 施設ある。

・　就労移行支援は、一般企業等への就労を希望する方を主な対象とするサービスであり、県内の利用者数は増加傾向となっている。

７－２　川部みどり園及び香川県ふじみ園の利用定員等について

・　川部みどり園及び香川県ふじみ園は、比較的重度の障害のある方を主な対象としているため、就労移行支援の利用対象者が少ない。

・　加えて、地域の民間事業所でも同様のサービスを利用でき、両園では近年利用実績がないことから、両園における就労移行支援は廃止することとする。

○県内の就労移行支援の利用者数（各年度 4/1 時点）

		H25	H28	R1	R4	R7	R8
主たる対象者を知的障害者としている就労移行支援事業所の利用者数	定　員　数	87	111	122	130	128	125
	利用者数	56	43	61	92	113	100
うち川部みどり園	定　員　数	6	6	6	6	6	6
	利用者数	1	3	1	0	0	0
うち香川県ふじみ園	定　員　数	12	12	6	6	6	6
	利用者数	7	6	1	1	0	0

８　福祉ホームの定員等の検討（香川県ふじみ園）

８－１　香川県ふじみ園の定員等について

・　県内の福祉ホームは、香川県ふじみ園（定員 20 名）の他には、身体障害者を対象とした朝日つばさ（定員 12 名）及び朝日ヶ丘（定員 10 名）の２施設のみである。

・　香川県ふじみ園福祉ホームの利用者は、近年のグループホームの増加に伴い減少している。

・　グループホームは、重度障害を含む多様な障害者の地域での生活を支えるサービスであり、県内においても整備が進んでいる。グループホームの増加や香川県ふじみ園福祉ホームの利用者数の状況を踏まえると、香川県ふじみ園福祉ホームはその役割を一定終えつつある状況にあると考えられる。

・　ただし、現在も入居者がいることから、施設の耐用年数等を踏まえつつ、利用者の状況や意向に配慮しながら、一定の移行期間を設けたうえでグループホーム等への転居を進め、将来的に廃止することとする（建替えの対象とはしない）。

○香川県ふじみ園の福祉ホーム利用者数の推移（月平均人数）

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
定　　員	20	20	20	20	20	20	20	20
利用者数	20.0	20.0	19.3	17.5	16.6	16.4	15.6	14.1

９　グループホームについて（参考・香川県ふじみ園）

９－１　県内の状況について

・　グループホームは、定員数が近年、継続的に増加しており、今後も増回傾向と考えられる。

・　香川県ふじみ園のグループホームは、指定管理の業務には入っていない（県立施設ではない。）。

○県内のグループホームの利用者数（各年度 4/1 時点）

		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
県内の状況	定員数	903	971	968	1,023	1,133	1,219	1,326	1,418	1,515
	利用者数	743	777	875	863	938	974	1,063	1,116	1,256
うちふじみ園	定員数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	利用者数	6	6	6	6	6	6	6	6	6

10　おわりに

本委員会では、香川県ふじみ園の建替え、香川県立川部みどり園の大規模改修について、県立施設としての役割や県内の障害福祉サービスの状況を踏まえて、両施設の機能、規模、定員等の観点から検討を行い、基本構想を取りまとめました。

一方で、本委員会での議論において、基本構想として盛り込む内容とは別に、今後の施設整備や運営や県全体の障害福祉施策に関わる意見もありましたので、本委員会からの今後に向けた提言として、以下のとおり示します。

まず、利用者が安心して生活や活動を行うための環境整備についてです。重度の自閉症や、強度行動障害のある方など、環境の影響を受けやすい方が安心して過ごせるよう、空調設備をはじめとする基本的な生活環境について、優先的に修繕・改修を進めていただきたいと思います。また、両施設においては入所して生活している方がいるということを念頭に、必要な施設整備をできるだけ早く進められるよう、行政には柔軟で迅速な対応を望みます。

また、発達障害のある子どもや、生活訓練・社会訓練を必要とする方への支援についても、今後さらに検討していく必要があります。教育現場や民間事業所等のケアだけでは十分に対応できない場合もあることから、関係機関同士で情報共有や連携をはかり、必要なケアや施設・機能の確保について考えていただきたいと思います。

さらに、利用者の高齢化を見据えたケアのあり方も、今後、重要な検討課題です。グループホームなど地域生活へ移行した後、加齢や障害の重度化が進んだ場合に、どのような場所で、どのようなケアを受けながら生活を続けるのか、人生の最終段階をどのように過ごすのかについては、十分な見通しが持てていない状況です。本人の意思や家族の思いを尊重しながら、将来の生活を見据えたケアのあり方について、行政や民間事業所等で検討を続けていただきたいと思います。

今後、10 年、20 年先には、利用者の高齢化や、強度行動障害のある方など、より専門的なケアを必要とする方が増加する可能性も考えられます。今後の利用状況や支援ニーズの変化を見ながら、必要に応じて、定員や施設機能について改めて議論していただくことを期待します。

今回の意見は、基本構想として取りまとめる内容とは別に、今後の県立施設の運営や県全体の障害福祉施策を考える上で重要な課題です。県におかれましては、これらの意見を今後の施策に生かすとともに、必要に応じて関係する協議会等に引き継ぐなど、検討を進めていただきたいと思います。

香川県ふじみ園及び香川県立川部みどり園が、利用者の生活を支える場であり続けるとともに、引き続き、地域の障害福祉を支える拠点となることを期待します。

県立知的障害者支援施設整備基本構想検討委員会　委員名簿

障害福祉サービス提供者			
香川県救護・身障施設協議会	会長	谷口　純一	朝日園施設長 香川県障害者施策推進協議会委員
香川県知的障害者福祉協会	理事長	野町　雷音	ナザレの村統括管理者 香川県障害者施策推進協議会委員
障害福祉サービス利用者			
香川県肢体不自由児者と父母の会連合会	会長	三谷　美代子	
(社福)香川県手をつなぐ育成会	理事長	和多田　朋宏	香川県障害者施策推進協議会委員
学識経験者			
四国学院大学 社会福祉学部	教授	野崎　晃広	
香川県建築士会	理事	村上　良枝	香川県障害者施策推進協議会委員
県立知的障害者支援施設の施設長			
香川県立川部みどり園	園長	前田　恵美子	
香川県ふじみ園	園長	河西　浩一	